



リレーエッセイ

ハードルを越えて

たに ぐち たく や
谷口 拓也さん
(鹿児島市)



2014年8月に、「知的障害者サッカー世界選手権ブラジル大会」に出場しました。この大会は4年に一度、サッカーW杯の開催地で行われます。日本代表として初めての決勝トーナメントに進出し、最終結果は4位でした。外国の選手はスピードがあり、体格も違いましたが、日本チームの特徴である組織力を活かし、世界と正々堂々と戦うことができました。

僕は大分県大分市生まれの19歳。赤ちゃんの頃からサッカーボールだけをおもちゃにして遊んでいたそうです。小学校、中学校とサッカー漬けの毎日を送り、ポジションはキーパーからフォワードまでひと通り経験しました。今は自分の持ち味であるテクニックを活かして、代表ではフォワードとして頑張っています。

大分県立大分支援学校高等部の3年生の頃、サッカーを辞めようかと悩んでいた時期がありました。すると鹿児島県選抜チームの取りまとめをしていた特定非営利活動法人スポーツライフかごしまの白石明史副理事長が「お前の力が必要だ！」と声を掛けてくれ、鹿児島での就職先やアパートまで探してくれました。初めは戸惑いしましたが、すぐに「行くしかない！サッカーで恩返ししたい！」と鹿児島移住を決意しました。

現在所属している鹿児島県のチームは、現役時代に九州リーグで9回得点王に輝いた西眞一さんが総監督です(知的障害者サッカー日本代表コーチとしてブラジルに帯同)。県のチームでは西監督が現役時代に付けていた9番を背負って、西さんに教わった強い気持ちを胸にプレーしています。

2018年にはロシアで「もう一つのW杯」が開催されます。応援してくれる方のためにも、鹿児島で精一杯練習を積んで、日の丸と薩摩魂を背負って必ずピッチに立ちたいと思っています。



前回の全国障害者スポーツ大会九州ブロック予選は惜しくも準優勝。今年こそは優勝を果たして全国大会へ出場したいと話す谷口さん(写真手前右端)

